

第2学年社会科学学習指導案

日時 平成18年9月13日(水) 5校時
 場所 宮古市立第一中学校 2年4組教室
 学級 2年4組
 (男子18名 女子17名 計35名)
 授業者 教諭 泉田 学

1 単元名 第5章 開国と近代日本の歩み
 3 日清・日露戦争と近代産業～日露戦争～ 新しい社会 歴史(東京書籍)

2 単元について

(1) 教材(学習材について)

本単元は、第5章「開国と近代日本の歩み」の3節に位置づけられている。学習指導要領の内容(5)のうち、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などの歴史的事象を追究する活動を通して、急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを理解させることを主なねらいとしている。

この時期の我が国は、国際的地位の向上を目指し、近代化・西洋化や、東アジアへの進出などに取り組んでいた。それらは、かつて経験したことのない様々な難局の連続であったものの、人々の努力の結果、ほぼ半世紀で欧米諸国との不平等条約の改正などが実現した。しかし、それは、他の国に損害を与えて得た地位でもあったと言える。

本単元の学習をこれまでの時代の学習と比較すると、次の2点の特質があるものと思われる。1つ目は、東アジア諸国とのかわり強まったことや、社会が急速に変化したことなど、様々な背景や要因が影響しているという点である。2つめは、この時代の歴史の特色を、様々な角度からとらえ理解することは、現在の我が国への理解を深めることにつながるとともに、将来の我が国を考える上でも必要な判断材料になり得るものと考えられる。

(2) 生徒について

小学校6年時の学習において、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことについて学習している。それを受け、本単元の学習では、大陸をめぐる国際情勢を背景に、戦争に至るまでの我が国の動き、戦争のあらましと国内外の反応などについて、資料等の読み取りを通して理解させたい。

生徒の学習姿勢はおおむね意欲的であり、特に男子には意欲的に発言する生徒が多く、社会的関心が高いものと思われる。しかし、発言内容には、短絡的な要素も見られ、他の生徒の発言を考慮に入れての思考や、文章・資料を読みとる力がやや不足している。各自の興味や疑問点を大切に、判断の視点を与えたりすることによって、より多面的・多角的に考察する力を育成していきたい。

(3) 指導について

単元指導構想

アジアで唯一の立憲制の国家が成立した経過や、欧米諸国との対等の外交関係を目指していったことを通して、国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを理解させるとともに、当時の人々の努力にも気づかせる。

「生徒指導の機能」を生かす手だてについて<本校の研究主題>

具体的な事象を追求する活動を通して、生徒が意欲を持てるよう工夫する。また、発表や、調査作業等に取り組む中で、個人・グループでの活動場面を意図的に設定し、「自己決定の場」「自己存在感」を与え、「共感的人間関係の育成」に努めていきたい。

自己評価の構想

「単元指導計画」の「観点別の評価規準」および「具体的評価規準」に対応させる形で、自己評価する時間を設け、学習活動への取り組み状況および到達度の把握に努める。

3 単元の指導目標

- ・急速に近代化を進めたわが国の国際的な地位の向上と、大陸との関係のあらましを理解させる。
- ・近代文化が形成されたことを、学問や科学技術で国際的な業績が生まれたことから理解させる。

4 指導計画と評価(6時間計画/本時は3時間目・・・別紙)

観点別の評価規準	評価場面	具体的評価規準		援助
		A	B	
【思考・判断】 アジアでのロシアやイギリスの動向と日本との関係に着目し、日露戦争の原因について資料から読み取る。	日露戦争の原因について、国際関係での日本の立場に着目し、個人及びグループ内で資料分析に取り組む場面。 「ノート・行動観察」	日露戦争の原因について様々な資料を用いて調べ、日本のみならず欧米列強の国際関係での思惑・立場と関連づけて資料を読み取ることができる。	日露戦争の原因について様々な資料を用いて調べ、日本の立場と関連づけて読み取ることができる。	資料の読み取り方の視点をアドバイスするとともに、グループのメンバーが出したアイデアを積極的に取り入れることをアドバイスする。
【技能・表現】 日露戦争の原因について、資料から読み取ったことをまとめる。	日露戦争の原因について、文章としてまとめたり、発表する場面。 「ノート・発表内容」	日露戦争の原因について考察した結果をまとめ、複数の要因を関連づけて文章表現や発表ができる。	日露戦争の原因について考察した結果をまとめ、文章表現や発表ができる。	まとめ方についてアドバイスするとともに、グループのメンバーが出したアイデアを積極的に取り入れることをアドバイスする。

6 本時のねらい

(1) 指導構想

日露戦争に至るまでの我が国の動き、戦争のあらましと国内外の反応等を理解させる。

(2) 本時の展開

段階	学習活動	時間	指導上の留意点・資料・評価・援助
課題の把握 10分	1 前時の想起 これまでの学習をふりかえる。	3	写真資料 『日清戦争の風刺画』の提示 板書資料 『前時の復習(穴埋め)』の提示 写真資料 『日露戦争の風刺画』 ・状況に応じてヒントを与え、それぞれの登場人物について理解させ、日露戦争前の国際関係に気づかせる。 板書資料 『日露の軍事力の差』 ・子どものような日本と大国であるロシアに着目させ、本時の学習課題を導く。
	2 課題把握 『日露戦争の風刺画』を見て、4人の人物は、それぞれどこの国かを発表する。	3	
	3 学習課題の設定	4	
戦えば不利と思われる日本が、どうして戦ったのだろう。			
課題の追究 25分	4 解決の予想 課題に対する予想を立て、発表する。	3	・予想を学習シートに記入させ、発表させる。 ・中国民衆による排外運動(「義和団事件」)の高まりについて気づかせる。 ・日清戦争・三国干渉などロシアの日本への対応について想起させたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 日露戦争の原因について様々な資料を用いて調べ、日本のみならず欧米列強の国際関係での思惑・立場と関連づけて資料を読み取ることができる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 資料の読み取り方の視点をアドバイスするとともに、グループのメンバーが出したアイデアを積極的に取り入れることをアドバイスする。 </div> 資料 『三国干渉』 (資料1) 『日露戦争をめぐる列強の関係・義和団事件』 (資料2) 『日英同盟』 (資料3) 『日露戦争をめぐる意見(主戦論)』 (資料4) ・各資料読み取りのヒントを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 日露戦争の原因について考察した結果をまとめ、複数の要因を関連づけて文章表現や発表ができる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ方についてアドバイスするとともに、グループのメンバーが出したアイデアを積極的に取り入れることをアドバイスする。 </div> ・日露戦争に賛否両論ある中で、ロシアと開戦した理由について考えさせる。 ・イギリスやアメリカが支援した理由を考えさせる。また、植民地をめぐって勢力を争う帝国主義戦争であることに気づかせる。 ・戦争の具体的な状況を理解させ、アメリカが斡旋を引き受けた理由にも触れる。
	5 事実の追究(分析) 配布した資料をもとに、事実を調べる。各自で調べさせる。小集団のグループ(4人程度)とし、お互いが調べた内容を相互に発表し、まとめる。	8	
	6 課題の検証(確認)及び認識の結合 グループ毎にまとめた考えを発表し、課題を解決する。	8	
まとめ・発展 15分	7 本時のまとめ 日露戦争の経過・結果・影響について教科書をもとに、まとめる。全員起立し、教科書p.142「日露戦争」の箇所を音読する。音読を終えた生徒から、着席し、まとめの穴埋め問題に取り組む。生徒に問いかけ、解説を交えながら、答え合わせを行う。	2 5 6	・ポーツマス条約の内容について下関条約と比較しながら、理解させる。 ・賠償金がないことに気づかせ、その理由も考えさせる。 ・戦争が国民に与えた影響を十分に考えさせる。 ・国民に強い不満がなぜ生まれたか気づかせる 資料 「増税に泣く国民」提示
	8 自己評価 日露戦争の展開について、とらえることができたか等。	1	
	9 次時の学習内容の確認	1	